

美術科学習指導案

生徒 第1学年A組 男子19名 女子21名 計40名
指導者 教諭 富尾 拓

I 題材名『心をつかむ展示空間』

II 題材について

本美術科では、「学びの深まりが自覚できる美術の学習指導をめざして」を主題とし、生徒一人一人の発想・構想における思考の跡や作品等の鑑賞を通じて深まった価値感の広がりなどを可視化することを通じて、個々に応じた指導をめざし、生徒に学びの深まりを実感させていきたいと実践研究に取り組んでいる。

本題材は、プレゼンテーションの方法について多角的な考察を行うもので、空間、媒体、状況に応じた演出を考え表現へとまとめ上げる過程を学ばせることをねらいとしている。題材の前半では、生活の中で機能的に働く造形や美術の働きなどを実感できるよう、街で見かけるウインドウ・ディスプレイに着目し、その役割から、《魅せる空間》をどうデザインするかという鑑賞の活動を行う。表現の工夫やコンセプト、そこに込められたデザイナーのメッセージを感じ取らせていく。また、後半は共同制作による表現の活動を取り入れ、与えられた条件を基に魅せる空間づくりのための演出を工夫させ、プレゼンテーションのための模型制作を行う。互いのよさを感じ取り、生かし合いながら、総合的にまとめ上げる力も育てたい。

III 題材の指導目標

- (1) 空間表現に興味・関心をもたせ、そのよさや美しさ、情感、雰囲気などを感じ取る感性を高めさせる。
【美術への関心・意欲・態度】
- (2) テーマに合った表現のイメージを発想し、形や色のもつ色彩や素材、空間の構成を効果的、総合的に構想させる。
【発想・構想の能力】
- (3) プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につけ、表現に創造的に生かしながら工夫し、効果的に制作させる。
【創造的な技能】
- (4) 制作や発表を通じて、コミュニケーションや批評をし合い、表現したかったイメージを感じ取ったり、互いのよさや個性を理解させる。
【鑑賞の能力】

IV 本題材における言語活動

テーマから感じ取ったことを、文章で記述する。【感受・表現】

互いの考えを伝え合い、表現を深める。【討論・協同】

作品のコンセプトを伝え合い、構想を練り直す。【構想・実践】

V 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
<p>表現・空間表現の面白さを味わい、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考えて表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。</p> <p>鑑賞・他者の作品に関心を持ち、主体的に見方や理解を深めようとしている。</p>	<p>「魅せる空間をデザインする」というテーマを基に、感性や想像力を働かせて、形や色彩の効果を生かして構成や装飾を工夫し、表現の構想を練っている。</p>	<p>感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しをもったりしながら、創造的に表現している。</p>	<p>感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、生活を美しく豊かにする美術の働きなどを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。</p>

VI 指導と評価の計画

月	題材	指導目標	主な学習活動	時数	【言語活動系統表】との関連
9 10	心をつかむ 展示空間	①ウインドウ・ディスプレイに興味・関心をもたせ、そのよさや美しさ、情感、雰囲気などを感じ取る感性を高めさせる。	出会う 鑑賞：題材のオリエンテーション ・ウインドウ・ディスプレイの制作風景等を観賞し、《魅せ方》の工夫や演出の効果を感じ取る。	1	【感受・表現】
		②視覚的に伝えるメッセージの面白さや魅力を味わわせ、生活を美しく豊かにする美術の働きなどを感じ取らせる。			
		③自分のアイデアを生かしながら、デザイン活動を楽しませる。	広げる 表現：テーマの構想 ・「《魅せる空間》をデザインする」というテーマから条件をふまえて自分が表現したい内容を発想し、構想のアイデアを考える。	1	
		④テーマに合った表現のイメージを発想し、形や色のもつ色彩や素材、空間の構成を効果的、総合的に構想させる。			
		⑤伝達のためのデザインの基礎的能力を身につけようとし、それを生かして表現や鑑賞の活動に楽しく取り組み、その喜びを味わわせる。	探る 演習：プレゼンテーションの工夫 ・自分の表現を他に伝えるための効果的な方法や印象に残る表現の共通点を見つける。	1	
		⑥プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につけ、表現に創造的に生かしながら工夫し、効果的に制作させる。			
		⑦見る人（伝える人）の立場を考えた視覚デザインの楽しさを味わわせる。	深める ※共同制作 表現：「《魅せる空間》をデザインする」 ・グループ内で自分の考えを伝え合い、構想を練り直し、空間の構成を効果的、総合的に構想する。	2	【構想・実践】
		⑧他と協力して魅せる空間を演出することができるように、自分らしい発想を広げさせる。			
		⑨自分のアイデアを生かしながら、デザインの表現活動を楽しませる。	創る ※共同制作 表現：立体模型の制作 ・自分たちの思いやコンセプトを表現するために、形や色彩、素材を工夫して制作する。	6	【討論・協同】
		⑩テーマに合った表現のイメージを発想し、形や色のもつ色彩や素材、空間の構成を効果的、総合的に構想させる。			
		⑪自分のイメージに合った材料や技法を自分なりに工夫させる。			
		⑫いろいろな形や色、光の効果から、空間を演出するさまざまな工夫を感じ取らせる。			
		⑬空間表現に興味・関心をもたせ、そのよさや美しさ、情感、雰囲気などを感じ取る感性を高めさせる。	伝える 鑑賞：プレゼンテーション ・作品を発表し、鑑賞し合う。	2 本 時	【討論・協同】
		⑭制作や発表を通じて、コミュニケーションや批評をし合い、表現したかったイメージを感じ取ったり、互いのよさや個性を理解させたりする。		2 / 2	

「A表現（2）イ（3）目的や機能の表現」の評価規準・評価方法

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準	Cへの手立て
関心・意欲・態度	①③ ⑤⑦ ⑨⑬	・作品 ・ワークシート ・授業観察 ・制作のあしあと 〈自己評価の変容〉	作品をより美しくするために <u>他者の作品や意見を基に常に集中して</u>	伝えたい内容を魅せるウィンドウ・ディスプレイとして表現することに興味や関心を持ち、構想を練ろうとしている。	印象的なウィンドウ・ディスプレイの表現を知らせ、他者に伝える面白さについて感じ取れるようにする。 表したいことを言葉で書き出し整理していくことから意欲を喚起する。
発想や構想の能力	④⑧ ⑩	・作品 ・制作のあしあと 〈ワークシート〉 ・授業観察	<u>豊かに発想し形や色彩、素材などの効果を生かした表現</u> 構想を練っている	「《魅せる空間》をデザインする」という主題を基に美の秩序や構成の基本を利用して立体模型の表現方法を考え、形や色彩、素材などの効果に気づきながら表現の構想をする。	季節感などをそのまま素直に表現する方法や形や色彩、素材の効果に視点をおいて伝える方法を示し、発想の導きかた等を助言する。
創造的な技能	⑥⑪	・作品 ・ワークシート ・授業観察	形を洗練させ <u>全体と部分のとの調和を</u> 考えながら表現している	形を単純化したり、強調したりする表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら、意図に応じて素材の生かし方を考え、創意工夫して表現している。	印象的な表現のために、形をすっきりさせたものや強調した表し方を伝える。 素材の扱い方のヒントや道具の使い方を伝え実演してみせる。

「B鑑賞」の評価規準・評価方法

関心・意欲・態度	②	・ワークシート ・発表	<u>より多面的な視点から</u>	作品の交流や鑑賞を通じて、造形的なよさや美しさ、作品の多様性を理解するとともに、自分の作品に活かすための視点を見出そうとしている。	自分たちの作品を校内に展示したり、多くの仲間に見てもらい、評価し合う活動を行うことで鑑賞の意欲を喚起する。
鑑賞の能力	⑫⑭	・ワークシート ・発表	<u>より多面的な視点から</u> <u>自らの考えを見出しながら</u>	自他の作品の造形的なよさや美しさについて、視点をもって感じ取り、自分の思いをもって味わっている。	分かりやすく、印象的に伝えるために、光の効果や形と色彩の効果など鑑賞の視点を確認する。

Ⅶ 生徒の実態について

美術の学習に対する意欲は全体的に低くはないが、自分自身の思いをうまく相手へ伝えるという自己表現を苦手としている生徒が多い。また、表現の活動では、発想を工夫して形にして表現していくことに慣れていない。そこで、本題材では、共同制作という学習活動を展開し自分自身の思いや作品制作におけるコンセプトをプレゼンテーションするという取組を通して、自分の考えや発想を表現していくことの面白さを感じ取らせたい。また、生活の中で直接機能的に働く造形や美術の働きなどを実感させる契機としたい。

Ⅷ 本時案

1 題材 『心をつかむ展示空間』

2 学習目標

- ・自分の感性を高めようと、空間表現のよさや美しさなどについて他との話し合い活動を通して、深く追究しようとする事ができる。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・発表を通じて、コミュニケーションや批評をし合い、作品の特徴や面白さ、意図を読みとることができる。 【鑑賞の能力】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と（評価方法）
○前時までの学習内容を振り返る。	○「制作のあしあと」を基に前時までの学習を振り返らせる。	
○学習内容を確認する	◆学習内容を提示する。	
自分たちの提案する「魅せるウインド・ディスプレイ」をプレゼンテーションしよう。		
○本時の学習目標の把握する。	◆ワークシートを配布する。	
仲間のプレゼンテーションから、《魅せ方》の工夫やコンセプトを感じ取ろう。		
○自分たちの作品をプレゼンテーションする。（5班分） 各班5分	○各班ごとにプレゼンテーションさせる。 ◆表現の工夫と目的をしっかりと伝えさせる。	
○感じたことを記録する。 相互評価	○イメージにあった表現を見つけさせる。 ◆表現のアイデアや意図を感じ取らせる。	○形や素材などの特徴や印象などから作者の主題や全体の感じ、よさや美しさ、心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取ろうとしている。【鑑賞の能力】 (発表・ワークシート)
○プレゼンテーションをみて感じたこと、気づいたことについて話し合う。	○互いの表現の工夫、よさ、感じたことについてアドバイスや話し合わせる。	○多様な表現のよさや創造的な表現の工夫などを感じ取ろうと積極的に発言している。【関心・意欲・態度】(観察)
○プレゼンテーションを終えて感想、自己評価をする。	○制作のあしあとに本時の学習の振り返りを記入させ、次時の説明をする。	
○後始末をする。		